

(添付書類1ー一般) 同行援護従業者養成研修 カリキュラム及び日程表

科目名		基本時間数	研修時間数		実施予定時間数	内容	担当講師		研修日時			実施場所 (名称及び所在地)
			官庁・自治体 通訳・介助員 養成研修修了者 免除	免除後 時間数					期日 (年月日)	曜日	時刻 (: ~ :)	
							氏名	所属・職、資格等				
講義	外出保障	1		1		●外出保障とは ●外出保障の歴史 ●外出保障の現状						
	視覚障害の理解と疾病①	1		1		●視覚障害の理解(視覚障害による不便さ、必要な情報)						
	視覚障害の理解と疾病②	0.5	○	0		●視覚障害と疾病の理解(様々な見えかた・見えにくさ、主な眼疾患の特徴とその見えにくさについての支援のポイント)						
	視覚障害者(児)の心理	1		1		●全盲の心理 ●ロービジョンの心理 ●視機能低下の心理 ●障害発生時期の心理 ●外出時の心理						
	視覚障害者(児)福祉の制度とサービス	1.5	○	0		●障害者福祉の動向 ●障害者福祉に関連する法律 ●障害者総合支援法 ●視覚障害に関する施設等 ●障害者を対象としたその他の制度						
	同行援護の制度	1		1		●同行援護以前の外出支援制度の歴史 ●同行援護制度の概要 ●他の外出支援制度との関係 ●同行援護制度の課題						
	同行援護従業者の実践と職業倫理	2.5	○	0		●同行援護従業者の業務内容 ●同行援護従業者の職業倫理 ●同行援護の実践(様々な利用者への対応等)						
講義・演習	情報提供	2		2		●情報提供とは ●情報提供の内容 ●場面別情報提供の実践 ●情報提供時の配慮 ●演習(3題程度)						
	代筆・代読①	1		1		●代読(業務における代読、代読の範囲・基本的な方法、留意点) ●代筆(業務における代筆、代筆の範囲・基本的な方法、留意点・代筆できないもの) ●演習(代読1題・代筆1題)						
	代筆・代読②	0.5	○	0		●代読・代筆の具体的な方法						
演習	誘導の基本技術①	4		4		●椅子への誘導・階段(スロープ、溝などをまたぐ、段差)						
	誘導の基本技術②	3	○	0		●基本姿勢・歩く(誘導の考え方、あいさつ、基本姿勢、やってはいけないこと、歩く、止まる、曲がる、方向転換) ●狭いところの通過、ドアの通過						
	誘導の応用技術(場面別・街歩き)①	4		4		●共通(トイレ、食事) ●街歩き(歩道、歩車道の区別ない道路、天候、踏切、グレーチング、混雑地、様々なドア、様々な階段)						
	誘導の応用技術(場面別・街歩き)②	1	○	0		●場面別(病院・薬局、買い物、行政窓口、金融機関、会議・研修、余暇活動、冠婚葬祭)						
	交通機関の利用	4		4		●電車の乗降 ●バスの乗降 ●車の乗降 ●船・飛行機の乗降						
計		28		19								

注1 「研修時間数」の「実施予定時間数」欄は、「基本時間数」欄の時間数以上の時間が必要です。(「盲ろう者向け通訳・介助員養成研修の修了者(以下、「科目免除者」)」を対象とする場合は、「免除後時間数」欄の時間数以上の時間が必要。)

2 「所属・職、資格等」欄には、所属・職の他、担当科目を教授するにあたって、適切な人材と判断できる根拠となる資格等を記入してください。

3 本様式に掲げる科目以外の科目を実施する場合は、本様式に準じて作成してください。

4 全科目を実施し、科目の省略はできない。(科目免除者を対象として実施する場合は、「免除」欄が○以外の科目の省略はできない。)

(添付書類1ー応用) 同行援護従業者養成研修 カリキュラム及び日程表

科目名		研修時間数		内容	担当講師		研修日時			実施場所 (名称及び所在地)
		基本 時間数	実施予定 時間数		氏名	所属・職, 資格等	期日 (年月日)	曜 日	時刻 (: ~ :)	
講 義	サービス提供責任者の業務	1		・事業所の体制 ・事業所の役割 ・サービス提供責任者の役割 ・サービス提供責任者の業務						
	様々な利用者への対応	1		・高齢化, 障害の重度化・重複化の現状 ・高齢の視覚障害者, 重複障害者への支援の留意点						
	個別支援計画と他機関との連携	1		・個別支援計画の策定 ・関係機関との連携						
	業務上のリスクマネジメント	1		・事業所のリスクマネジメント ・同行援護従業者のリスクマネジメント ・事故発生時の管理体制						
	従業者研修の実施	1		・従業者研修の目的 ・従業者研修の内容 ・従業者の質の向上のための工夫						
	同行援護の実務上の留意点	1		・同行援護の制度上の留意点 ・同行援護の実務上の留意点 ・介護保険制度との関係						
計		6								

注1 「研修時間数」の「実施予定時間数」欄は、「基本時間数」欄の時間数以上の時間が必要です。
2 「所属・職, 資格等」欄には、所属・職の他、担当科目を教授するにあたって、適切な人材と判断できる根拠となる資格等を記入してください。
3 本様式に掲げる科目以外の科目を実施する場合は、本様式に準じて作成してください。
4 全科目を実施し、科目の省略はできない。